

# 移り住みたくなる 街づくりを

株式会社アイセイ薬局 代表取締役社長

岡村幸彦さん

Yukihiko Okamura



## 経歴

静岡市駿河区生まれ。静岡県立静岡薬科大学薬学部卒業、薬局勤務を経て1984年、千葉県市川市に株式会社アイセイ薬局を開業、現在、同社代表取締役社長。55歳。

2003年、社会福祉法人愛誠会を設立、理事長として知的障害者のための生活・就労支援活動等も行っている。

<http://www.aisei.co.jp/>

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

## 医療モール開発の先駆者

アイセイ薬局は、主に開業医からの処方せんを扱う調剤薬局。創業者の岡村さんは大学を卒業して2年後の1984年にいち早く院外処方推進を掲げ、千葉県市川市に1号店をオープンした。いわば医薬分業の草分け的存在だ。市川で事業を始めたのは「知人に誘われて勤めたドラッグストアが市川だったんです」。

その頃の市川市は、東京のベッドタウン

として人口が急増し、医療機関が不足。地域の急成長期で「人、モノが激しく動きダイナミズムを感じた」といい、従兄弟と二人三脚で、耳鼻科、内科、小児科、皮膚科、薬局が入った医療モールを開設した。「従兄弟は医療機関の経営者、私は調剤薬局のオーナーというように医薬分業を進めたところ、大繁盛しました」。

医薬分業化の波に乗って急成長を遂げ、医療モール開発のリーディングカンパニーとして業界ベスト10に名を連ねる。調剤薬局

事業日本一の実現に向け、M&Aなどを通じ規模拡大を図る方針だ。

## 大胆発想の再開発も

静岡市に住む企業経営者への注文も率直に語る。「人との付き合いが濃いが故に一步抜き進めることを恐れる。画期的なサービスや商品でもなかなか始めない」。裸一貫同然で起業し、苦労を重ねただけにビジネスについては厳しい。

住環境の良さはだれしもが認める静岡市。岡村さんは「そこを生かし、静岡に住みたくてたまらなくなる、街づくりを目指したらどうでしょう」と話す。具体的には、東京などでのリタイア組、セミリタイア組の人たちの受け皿としての街づくりを挙げる。「ターゲットを絞り、JR静岡駅近くに(首都圏の)こういう人たちが、富裕層が住みたくなる、こじやれたマンションを建てたり、鷹匠町、水落地区の大規模再開発」を提案する。「東京ミッドタウンなどのように、街ごと変える再開発でないと、東京へ新幹線通勤するような富裕層は住んでくれない。(再開発により)人が集まり、モノが売れる。建築、不動産業だけでなく、駅前の商店街だつて潤いますよ」。

一方、岡村さんは社会福祉法人愛誠会の理事長として、静岡県内に知的障害者の生活・就労を支援する施設を複数運営するなど、福祉活動にも力を注いでいる。

(文：長田義明、写真：(株)アイセイ薬局)